

シイタケ菌床栽培着々

きのこ総研、栗山の工場

北海道きのこ生産総合研究所(本社・札幌市、三浦裕一社長)の栗山菌床しいたけ製造センターが順調に操業している。シイタケ菌床栽培施設としては国内最大級という。同社は札幌、石狩市

シイタケの生産は原木を利用することが多かったが、現在は菌床栽培が主力。おがくずなどを利用して栽培床を作り、約90日をかけて培養。ビニールハウスでシイタケを発生させて製品化する。

同センターは栗山工業団地にある住宅メーカー「木の城たいせつ」(08年経営破綻)関連施設跡地に建設。6月から操業し、ビニールハウスの増設も進んでいる。

同社は年間生産量を数年後には3000ト以上に増やす計画で、うち栗山町内で半数を超えるの見込んでいる。同社の漆原博・事業推進調査役は「シイタケの菌床栽培には広い敷地と日照などが必要。栗山は条件に合致しており、国内トップクラスの生産基地にしたい」と話している。

【吉田競】

ほっかいどう



NEWS